

Q：小学校4年生で不登校になりやすいのはどうして？

A：小学校4年生という時期は、友達の作り方に変化が起こるころです。今まではだれとでも仲よくしようとしていたのが、友達と100か0かというような関係を築こうとします。うまくその関係に入れない場合、一人になってしまった感じに耐えられず、不登校になることがあります。

Q：不登校の理由を尋ねると、聞かたびに違ってきます。どのように対応すればいいですか？

A：不登校の最初のころは、理由がどんどん変わったり分からなかったりする場合がよく見られます。どれも本当で、どれも違っていているということがあります。子ども自身にも、分からないというのが本音のことがあるのです。そんなときには、聞けば聞くほど、違う理由を探さなければいけませんから、子どもにとっても苦しいものです。理由にこだわらず、これからどうしたいのかという点に学校も保護者も重点を置いた方がよいでしょう。

Q：昼夜逆転をしているときはどうしたらいいですか？

A：不登校が長期化してくると、昼夜逆転がよく起こります。不登校の子どもたちにとっては、夜の静けさや、家族からの解放感が自分を取り戻すための必要な時間となっていることもあります。不登校経験者の子どもたちからはこの昼夜逆転の時期に自分の進路や、これからどうしたらよいかということを考えていたということをよく聞きます。焦る保護者の気持ちには共感しながら、子どもたちをゆっくりと見守るようにしましょう。

こんなことで

悩んでいませんが

登校支援のポイントと有効な手だて 愛媛県教育委員会

Q：中1ギャップって何？

A：小学生から中学1年生になったとたん、学習や生活の変化になじめずに不登校となったり、いじめが増えたりするという現象です。コミュニケーションが苦手な生徒が小学校時の友達や教師の支えを失う「喪失不安増大型」や、小学校でリーダーとして活躍していた生徒が中学校で居場所を失ってしまう「自己発揮機会喪失ストレス蓄積型」などがあります。

Q：不登校が心配されたとき、保護者にどのように対応すればいいですか？

A：まずは、直接会って話をしてみましょう。電話だけでは、気持ちが行き違ったり、学校に対して言いたいことがあっても言えなかったりして、対応が遅れることがあります。不安に感じている保護者が学校や周りの友達に対して批判的なことを言っても、まずは丁寧に聞くことを心掛けましょう。一番焦っているのは保護者です。

Q：登校刺激はしてもいいのですか？

A：不登校の背景は様々であり、働きかけの方法自体は個々の児童生徒によってそれぞれ異なります。例えば、登校をやり始めた初期の段階や、友達と会話ができる、情緒が安定している場合には登校を促し、身体的な症状が見られる状態では働きかけを控えるなど、状態や時期に応じた適切な対応が必要です。また、登校への促しだけを強調するのではなく、人間関係等の悩みを克服し、社会とのつながりを通じて児童生徒が主体的に立ち上がっていくための支援をするという視点を忘れてはいけません。

Q：再登校を始めたころに気をつけることはありますか？

A：再登校は子どもにとって負担の大きいものです。にこにこしていても大丈夫とは思わず、焦らずゆっくり対応することが重要です。特に、子どもは、学校にいる時間の長さが気になるようですから、最初のうちは短い時間から挑戦させるとよいでしょう。再登校のときには保護者ともよく相談をして、登下校の仕方、学校での居場所なども決めておくと、子どもは予定が立てられるので登校しやすいようです。

Q：家庭訪問はどのくらいの頻度でいけばいいですか？

A：保護者にもよりますが、不安の高くなる最初のうちはできるだけ頻繁に保護者と会って話を聞く必要があります。長期化している場合は、逆に学校の対応が苦痛になることもあるようです。要は、連絡を取りながら、保護者の希望に合わせるのいいと思います。子どもに会えるのが当たり前と思わず、家庭訪問の目的の一つは保護者の支援にあると考えるとよいでしょう。